

平成 19 年度つどいの広場研修事業「子育てひろば研修セミナー」〈東京開催〉のご報告

子育てひろば立ち上げ支援セミナー

テーマ

## 親子が会う、子育てが会う、子育て支援の拠点づくり



10月4日と5日の2日間にわたって「子育てひろば立ち上げ支援セミナー〈東京開催〉」が行なわれました。NPO法人子育てひろば全国連絡協議会が、財団法人こども未来財団とともに開催してきた子育てひろば研修セミナーとして、はじめて立ち上げ支援に特化して行なわれた本セミナーでは、これからひろばを立ち上げたいと考えている、あるいは立ち上げてまもない人や団体を対象に実施。北海道から沖縄まで両日でのべ470人の方にご参加いただき、ひろばを運営していくソフト(マインド)とハード(制度・設備など)について、情報交換をしながら、考え学びました。

### 開催趣旨

国の「子ども・子育て応援プラン」において、「つどいの広場事業」と「地域子育て支援センター事業」は、当初平成21年度までに全国6,000ヶ所に目標が掲げられ、さらにその必要性から前倒しでの整備が求められています。また、平成19年度より、つどいの広場事業、地域子育て支援センター事業が統合され、児童館などのスペースも活用しながら、地域子育て支援拠点事業(ひろば型、センター型、児童館型)として再編されました。そこで、子育て支援拠点の開設を検討している団体や自治体を対象とした立ち上げ支援セミナーを実施し、その意義と役割を検証し、立ち上げ時の課題解決に寄与することを目的とします。

### プログラム趣旨

これからひろばを立ち上げる団体・自治体を対象に、地域子育て支援の拠点としての機能や役割を認識しながら、開設に至る準備やその後の課題を解決するためのセミナーを実施します。分科会では、行政担当者ひろば責任者が開設までの具体的な準備などを学ぶセミナーやワークショップを取り入れたひろばスタッフのための初任者研修なども行ないます。

### 実施概要

- 開催日:平成19年10月4日(木)14:20~17:15  
10月5日(金)9:45~12:15
- 会場:女性と仕事の未来館(東京都港区芝5-35-3)
- 対象:子育てひろばの開設をめざす団体・自治体、地域子育て支援に関わる実践者の方。
- 主催/財団法人こども未来財団
- 共催/NPO法人子育てひろば全国連絡協議会
- 後援/厚生労働省・(社福)全国社会福祉協議会・東京都
- 協力/NPO法人 新座子育てネットワーク
- 参加人数  
234名(男性47名・女性187名)  
(行政93名・NPO任意団体75名・その他団体/企業34名・その他32名)  
※2日間のべ人数446名

## 主催者挨拶



主催の財団法人こども未来財団  
常務理事の磯部文雄さんから挨拶がありました

## プログラム概要

10月4日（木）14:20～17:15

### ■プログラム1 パネルディスカッション

#### テーマ「親子が会おう、子育てが会おう、子育て支援の拠点づくり」

原さん、木村さんからNPO法人として、ひろばを運営する現場の話を、田中さん、朝川さんから行政の関わりでのお話がありました。参加者からは、「NPOと行政の率直な話がきけてよかった」「自分の市も子育て支援について、テーマ、ストーリーを明確にする必要があると感じた」などの感想が寄せられました。

【コーディネーター】江東区大島子ども家庭支援センター「みずべ」 新澤拓治さん

【パネリスト】世田谷区 田中茂さん

NPO法人びーのびーの 原美紀さん

新座市児童センターつどいの広場セサミ 木村ひろみさん

【助言者】厚生労働省少子化対策企画室室長 朝川 知昭さん



【コーディネーター】  
新澤拓治さん



【助言者】  
朝川知昭さん



【パネリスト】  
田中茂さん



【パネリスト】  
木村ひろみさん



【パネリスト】  
原美紀さん

## ■プログラム2 講演

### 子育て支援拠点事業の最新動向

厚生労働省 少子化対策企画室室長 朝川 知昭さん



朝川室長から、「地域子育て支援拠点事業の概要と展望」について説明がありました。「少子化対策の中での地域子育て支援拠点事業にかかる国の思いが伝わってきた」「ひろば事業の位置づけがよくわかった」と参加者。

## ■プログラム3 ひろばの業務レクチャー

### ひろばの一日、一年の流れの業務レクチャー

レクチャー NPO 法人新座子育てネットワーク 坂本純子さん

ひろばの運営に伴う業務について、一日、一年の流れで、坂本さんから、具体的な事例をあげて解説がありました。参加者からは、「アンケート調査を行って、ひろばをより良いものにしていくことはもちろん、利用人数のデータから客観的に得られる情報を上手に利用していくことも大切なのだ」と知った」「活動の報告と評価の重要性とがよくわかりました。活動のよさや、意義はわかるが、それを言語化したり、表現する力がないと世の中(他人に)伝わらない、理解してもらえないものです」などの感想が寄せられています。



10月5日(金) 9:45~12:15

## ■プログラム3

### ◆分科会1◆ ひろば責任者と行政担当者のための開設準備と初年度の課題に応える

ー運営責任者向け、行政担当者向けー

これから地域子育て支援拠点の開設をめざす団体・自治体の方を対象に、オープンまでの準備を解説し、初期の運営課題に備えるための分科会を行いました。

森木さんからは、制度ができる前から「親子が気軽にきておしゃべりできる場」の必要性を感じ、活動をはじめた「ベータひろば」の事例、大砂さんからは委託型、直営型、補助型で運営するさいたま市のひろば事業、厚生労働省の香取さんから補助金などの政策についての説明がありました。森木さんの報告を受けて、コーディネーターの奥山さんは、「ひろばを開設するにあたっては、場所があるから、行政にいわれたからではなく、なぜひろばを開設したいのか、どんなひろばにしていきたいのか、スタッフの思いを明確にすることが大事だと感じた」。

【コーディネーター】NPO法人びーのびーの 奥山千鶴子さん

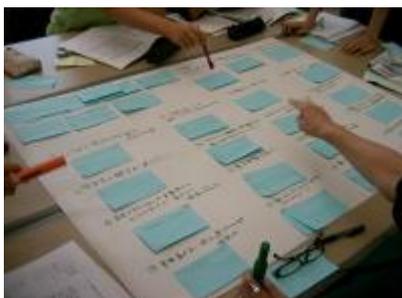
【事例報告者】ファミリーセンター東京ベータル 森木美佐子さん

さいたま市大砂武博さん

【助言者】厚生労働省少子化対策企画室 香取徹さん



◆分科会2◆ ひろばスタッフのための初任者研修 —スタッフ向け、ボランティア向け—



日々、利用者から持ち込まれる多様な課題(ニーズ)。地域子育て支援拠点で、スタッフの役割は大きく、事業の“質”にもつながってきます。そんなスタッフの役割を理解し、親子への関わり方をワークショップ形式で研修しました。

ワークショップでは、「スタッフの課題や負担」について出し合い、解決策ではなく、原因について「なぜ? なぜ?」と考えたあと、解決プランを考えました。

【コーディネーター】聖和大学 橋本真紀さん

【ファシリテーター】子育て支援グループ amigo 松田妙子さん

新座市児童センターつどいの広場セサミ 木村ひろみさん

NPO法人新座子育てネットワーク 佐野育子さん

NPO法人びーのびーの 出井美恵子さん



参加者からは、「悩んでいること、広場で感じていることを、グループの皆さんで共有でき、少し安心できた。そのたくさんの問題を一つひとつ時間がかかっても解決していこうと思う気持ちが強く湧いた」などの感想が寄せられました。

◆分科会3◆ 子育て支援の発展型として拠点型ひろばへ —スタッフ向け、ボランティア向け—

子育て支援の市民活動から誕生した「つどいの広場事業」。子育て支援のボランティアから、地域子育て支援拠点の開設をめざすみなさんが、ひろばを開設した事例などを通して、そのノウハウを学び、エンパワーされることをめざしました。「『ひろば』の必要性、重要性がわかりました。スタッフ同士のコミュニケーションの大切さ、ミーティング、スキルアップの重要性など、学ぶべきものがたくさんありますね」「“想い”が大事。場所ではない。広場は人が作るという思いを強くしました」「これからの課題、方向性が見えてきました」と参加者。

【コーディネーター】NPO法人新座子育てネットワーク 坂本純子さん

【事例報告者】こどもの城 下村一さん

おやこ広場もくれんハウス 鈴木雅子さん

いくじネットいちかわ 幸前文子さん



■プログラム5 全体会 分科会での報告会



本セミナーのまとめとして、各分科会の内容を発表しあい、情報を共有しました。

【コーディネーター】NPO法人新座子育てネットワーク 坂本純子

【報告者】分科会1 NPO法人びーのびーの 奥山千鶴子さん

分科会2 聖和大学 橋本真紀さん

分科会3 おやこ広場もくれんハウス 鈴木雅子さん



## ★セミナーを振り返って



【コーディネーター】 坂本純子さん

セミナーをしていつも思うのは、セミナー自体が「ひろば」だということ。ひろばにきた親たちが、支援者に見守られ、他の親とつながり、自分自身の子育てのあり方を見つけようとしていくように、セミナーに参加した人たちが、悩みや課題点を相談し合い、仲間とつながり、自分たちのひろばを作っていくヒントをもらっていく。地域によって環境は違うと思うので、ひろばのカタチもいろいろあっていいと思う。自分たちの作りたいひろばのカタチを見つけたい。



【分科会1】 奥山千鶴子さん

地域子育て支援という考え方は新しく、ここ2、3年で盛り上がってきたと感じる。私たちが活動をはじめた2000年頃は、「どうして専業で子育てをしている母親に支援がいるの？」という時代で、行政に担当のセクションもなかった。ひろばの事業は、求められるべくして生まれてきた新しい事業。行政の方も既成概念をとっぴらって、NPOの個性が活かせる枠組みを作ってほしい。正解はなく、試行錯誤をしながら行政とNPOでつくっていく事業だと思う。衝突もあるだろう。でも、こうしたセミナーなどでうまくいった、いかないも含めて、情報を共有し、よりよい事業にしていけたらと思う。参加者の熱気も行政の関心の高さも、ヒシヒシと感じた二日間だった。



【分科会2】 橋本真紀さん

分科会を一緒に体験させてもらって、奥山さんや坂本さんたちを子育て支援の第一世代と呼ぶなら、第一世代から第二世代に移ってきているのかな、と感じた。行政の体制もないなか、親子の居場所づくりに取り組んできた第一世代と、できたところに積み上げていく第二世代では、抱える課題、悩み、不安が、同じところもあるけれど、違うところもあると思った。今回の分科会で出た意見などを結果として蓄積し、これからのセミナーのつなげてもらったらうれしい。



【分科会3】 鈴木雅子さん

1人の子育てをしている母親として、当事者として、こういった場があったらいいなと、わこう子育てネットワークを立ち上げたときは、まさか今日のような舞台上で自分が登壇する立場になるとは思ってもみなかった。一緒にカタチにしていこうという仲間がいたから、ネットワークも立ち上がり、ひろばも開設できたことのおおきさを改めて感じた。活動を通して、親子が出会い、人が出会うことの大切さ、それをどう発展させ、連携させていくのか。私たちのNPOの活動も、こうした場に来て、多くのひとたちと出会い、つながっていくことで活動を発展させていくことができるのだと思う。

## ■オプション企画

2日目の午後は、＜情報交換会＞と＜「ひろば」の視察＞の2つのオプション企画を設けました。＜ひろばの視察会＞は首都圏の12カ所のひろばの協力を得て、90人近い方たちがひろばの現場を視察しました。



### ◆情報交換会◆

「情報交換会は本音に話し合うことができ  
いいプログラムでした」と参加者。